

同窓会報 興学

発行所
山形県西置賜郡
小国町大字岩井沢
621番地
小国高等学校内
電話(62)2054
小国高等学校同窓会
事務局



上..昭和四十九年度卒業生同窓会
中..平成三年度卒業生同窓会
下..平成八年度卒業生同窓会



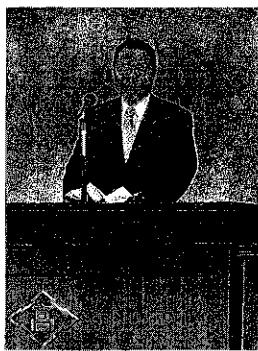
小国高校公認キャラクター
おぐまん

創立七十周年を 迎える小国高校

小国高等学校同窓会会長

安部 昌 晴

(昭和四十年度卒)



会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

私が小国高等学校同窓会長に就任以来六年目を迎えることになりました。

就任以来から春の入学式、創立記念式典、三月には同窓会入会式、卒業式と同窓会長として招かれ参列してまいりました。また、学校行事として、体育祭、学校祭などにも参加させていただいています。式典に於いては、形としては毎年同じように行っておられますが、そこに関わる生徒たちの入学式、新入生として真新しい制服姿で希望に充ちあふれた緊張感、小国町長はじめ小学校、中学校で成長を

見守り指導して頂いた各小中学校の校長先生や教職員の皆さんもいつもと違う装いで新入生を見守っています。

卒業式では、三年間の学び舎と後輩たちに見送られ進学する人、就職で社会に巣立つ人、それぞれの新しい門出に向かい威風堂々とした雄姿がみられます。

私は、小国高校の特色ある教育の一つに大学教授を招き、一年生時に行っている地域学習で小国町の古くから伝わる伝承文化や、地域の特色を研究し発表している事に共感しています。

特に小国町に自生している山ウコギの研究では、ヒメウコギとの比較でヤマウコギのポリフェノールの含有量がけた違いに多い研究データが示されています。

今年度、山形ビッグウイングに於いて山形県高校生サイエンスフォーラムが行われましたが、小国高校一年生地域学習ヤマウコギ研究班六名が山形大学名誉教授尾形先生監修の基、研究領域化学で「ポリフェノールを多く含むヤマウコギを美味しく食べるには？」をテーマに発表している光景を見た時に、県内大規模校

の生徒と並んで発表する姿に感心させられました。

現在、生徒数は減少していますが、中で学習する生徒達は一生懸命に頑張っています。同窓会としても物心両面で支援していければと考えます。

会員の皆様これからも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

地域の

中核校として

未来に羽ばたく

小国高等学校校長

柿崎 悦子



同窓会の皆様には、母校の教育活動と後輩の育成のため、物心両面にわたり格段のご支援とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今年、昭和二十三年の創立から六十九周年、来年は創立七十周年の節目を迎

えます。この節目に、東北地区としては初めて、県より学校運営協議会設置校として指定され、コミュニティ・スクールとして歩み出しました。県の連携型中高一貫教育校として、また小国町

における小中高一貫教育の始まりから十七年目という長い歴史を基盤に、時代に即した学校教育の在り方を模索し、地域と共に歩む学校として将来に向けて発展的に教育活動を展開していきます。小国高校の教育活動を支えてくださる同窓会の皆様や地域の皆様には今

までのご支援に心より御礼を申し上げますと共に、今後も本校の教育活動の様々な取り組みによって本校を巣立つ生徒が、地域の中核となる人材として活躍できるような教育にあたつてまいりますので、引き続きのご支援を賜りたくお願い申し上げます。

皆様の後輩達は、今年度も学習に行事に熱心に取組み、様々な場面で活躍してくれました。県内高校の最大のイベントであった南東北インターハイでは、生徒会が中心となり県民の皆様インターハイをPRし、大会

当日は補助役員としても大活躍しました。また、一年生の地域文化学での研究は、その成果の一部を県のサイエンスフォーラムでも発表するなど深まりを見せています。

生徒の活躍については、十二月の「活動報告会」等で地域の皆様に報告いたしました。来場いただいた方々からは、お褒めの言葉を数多く頂戴しました。ホームページ等も含め、今後とも生徒の活躍の様子を積極的に情報発信してまいりたいと考えております。

また、三年生の進路はほぼ決定し、就職希望者は町内にも多数お世話になることとなります。進学希望者についても、将来は、小国町に戻って行政や医療や福祉などに携わり、地域に貢献したいという意欲を持った生徒ばかりで、地域を担っていくこうとする逞しい人材です。

今後とも小国高校のさらなる発展を目指し、職員一丸となって邁進して参りますので、同窓生の皆様には、在校生へのなお一層のご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

同級会の紹介

同窓会は楽しい

奥山 仁一

(昭和四十九年度卒)



昭和四十九年度卒業生の(還暦の祝い)同窓会が平成二十九年六月十七日ふれで開催されました。

恩師の伊藤和夫先生、今野征一先生、島貫満先生、馬場高子先生に参加頂き三十六名の参加となりました。町内在住者が実行委員となり、役割分担を決め、会合を重ね準備をしてきました。

金太郎師匠と木村陽子さんの司会で始まり、渡辺幸弘実行委員長のあいさつ、参加者の近況報告などで盛り上がりしました。

二次会は、校歌の合唱で始まり、フオークダンス、カラオケで楽しく、心は高

校生、時間よ止まれ、楽しい同窓会となりました。

今回都合により欠席の方は、次会出席してください。

「山形新聞同窓会紹介コーナー」で紹介された文面を記載します。」

還暦のお祝いを町内で開催。まずは地酒で乾杯！青春時代の思い出話や近況を語り合った。白黒の写真をながめながら、若かったころの自分を見つける。卒業以来の人もいて、変貌ぶりに名前が出てこない。「誰だべ、今どさいだ？」。どうしても小国弁になる。小国音頭で踊っている汗。次回まで健康第一で！

初同級会

原田 裕司

(平成三年度卒)



高校を卒業して、二十六年の年月が経ちました。初めて同級会を行いました。その事をうまくお伝えする

ことができません。あれこれ考えましたが、ある日私の所へ担任の馬場先生から一通のハガキが届きました。紹介させていただきます。先生からのハガキが、当時の私達や、同級会の様子をうまくお伝え出来ると思います。

『先日は本当に楽しく、懐かしい会にお招きいただきありがとうございました。』

わづか一年の担任でしたが、活気に富み、本音でぶつかる皆さんが昔と変わらないうてくれて、うれしく思います。

この度は、先生達も楽しませてくれて、本当にありがとうございます。元気が第一です。町内も、県外の皆も、まず元気でいてくれてありがとうございます。またお会いしましょう。『このハガキを頂いた時、私は大変感謝しました。』

参加して頂きました、馬場高子先生、加藤真琴先生、遠藤啓司先生、駒澤堅一さんありがとうございます。また、幹事の皆様、参加して頂いた同級生の皆様、本当にありがとうございます。次回は、五十歳時に企画しております。

またお会い出来ることを楽しみにしております。そして、校歌を皆で歌い

初めての同窓会を企画して

安部 誠

(平成八年度卒)



ましょう。

期待と不安を募らせて入学した小国高等学校を卒業してから、早いもので二十年が経ち、皆はどうしているのだろうかと思いをよぎった。小中学生の時は私を含めて、同級生が六人しかいなかったため、二クラスで約六十人の高校生活には本当に不安でしかなかった。しかし、三年間の高校生活はあつという間で、良い恩師と良い仲間に出会ったからこそ、今の自分があると思う。

当時三年の時、クラス委員だった私は行事関係が好きだったので二十年経った節目として同窓会という言葉が胸を躍らせた。同窓会の開催にあたって約一年前から他の同級生に連絡を取り、

少しずつの段取りを行ってきた。

行うことの全てが初めてで皆の協力が無いと何も出来なかった。そんな自分に同級生は一緒に力を出してくれた。その時、当時の団結や仲間意識が思い出された。ただ非常に残念だったのが、出欠用のハガキが半分以上も欠席ということだった。中には卒業してから再会していない同級生もいたため、一枚一枚ハガキを確認する度溜息が洩れた。

当日、開催時間より一時間前に集まり皆で準備を始めた。懐かしい顔ぶれが来場し始めた。三人の恩師にも出席して頂き、当時の思い出話で記憶が甦り、盛大な同窓会となった。あの頃若かった恩師も歳を重ね、顔の所々にあるシワに自分自身も年月を感じた。参加人数は非常に少なかつたが、二十年前と変わらない顔ぶれで安堵した。

母校である小国高校の前を通るたびに当時と変わらぬ校舎を見て、色々な思いが頭を駆け巡る。先輩達が築き上げてきた小国高校の歴史を、これからの子供達に託したいと私は強く願っている。

おたよりコーナー



望郷の地 小国

高橋 孝 壽

(昭和三十六年度卒)



昭和三十年三月三十日に米坂線に乗り初めて小国の地に降り立った。雪の多さについては前もって知らされていたが駅前広場に高く積み上げられた雪の山。春が目前なのにと驚いた記憶がある。私の小国町での生活はこの日から始まった。

四月から小学六年生を振り出しに小国高校在学中の三年間を含め八年間を過ごした。

高校には昭和三十四年四月に十三回生として入学し思い出は数々ある。当時の校舎は平屋建てであり危ない作業という認識も薄かったせいか我々生徒による屋根の雪下ろし作業も経験した。

体育の時間には電興裏のウサギ山でのスキー教室、春夏には学校林での下刈作業、秋には荒川河川敷での芋煮会等々都市部では体験できない小国高校ならではの特色ある教育内容であったと思う。

昭和三十七年三月に高校を卒業し、その後人生が灰色に見える浪人生活を一年経て三十八年三月に小国を離れた。従って三八豪雪も経験した。ヘリコプターによる救援物資の空輸は感動的であり実物のヘリを近くで見たのは初めてであった。私生活に於いては、当時拙宅は小国駅構内の近くにあり早朝から始発列車に備え蒸気機関車の調整音で目が覚めた。気にはなつたがそれも日常生活の音として慣れていった。

小国を離れ半世紀余り、生活の場は多々変わったが年数を経るにつれ望郷の念が強まってくるのを感じる。私達が学んだ学舎は一新され当時の面影は無いが時の流れであり仕方ないこと

である。秋にしばしば発生する朝霧は横川からであろ。うか。ぼんやりとした靄の中の登校も思い出深いものである。冬季には踏み固められたでこぼこの雪道を歩いているの通学も今となっては懐かしい。

首都圏在住の小国出身者による集い「小国郷人会」が毎年東京で開催される。私も仲間に入れてもらい親睦を深めさせてもらっている。小国を訪れることは稀になったが、行った際に必ず訪れる私の好きな場所がある。小国町を一望出来る神明山公園（地元では県社山？）である。横根山を仰ぎ眼下には横川の流れ、狭い所に立ち並ぶ町中心部の家々。山はおおき故郷、水は清き故郷。一人静かに過ぎし日を偲ぶのである。

高校時代

(旧姓齋藤)

馬場 良子



(平成四年度卒)

小国高校を卒業し二十五年経ちます。私の中ではついこの間のように思いますが、私達は旧制服で女子は紺色、男子は学ランでした。翌年から現在の緑色の制服に変



更になりました。それを思えば、紺色の制服を着ていた私達はひと昔前の年代に思えます。

私は高校三年間、バレー部に所属していました。大会が近くなれば朝練があったり、暗くなるまで練習し、ほぼ毎日部活動に励んでいました。他には興学会館での合宿、休日の他校との練習試合もありました。また、減量目的で練習前に皆で体重測定をしたり、練習も辛い毎日でしたが、仲間がいたから楽しく続けられました。

高校生の時は多感な時で、親や先生に対しても大きな声で反抗していました。それでも先生方は温かく接して下さいました。今考えれば先生方の愛情はありがたく、そして申し訳なく、大変な大ばかりだったと深く反省しております。

高校二年生の時に自分の将来を真剣に考え、看護師になることを決めました。当時四人が同じ道を目指し

ていました。そんな私達のために先生方は放課後や夏休みに個別に授業をして下さいました。又、学校説明会には進路担当の先生に私達が質問をたくさん書いた紙を持って出向いて頂き、その全ての質問をきいてきて下さったのを覚えています。他校と比べれば生徒は少人数ではありましたが、その分先生方が個々に目を向けて頂いていたと思います。

こうして振り返れば、高校生活はとても充実していました。周囲を気にせずに大声で叫んだり、バレー部の仲間達と笑って語って遊んで楽しい日々でした。

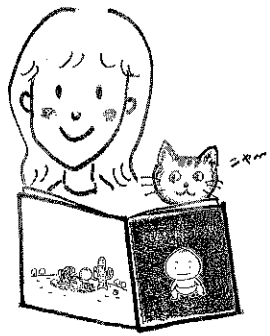
私は専門学校から地元を離れ四年間働き、小国町へ戻って来ました。小国町は冬の厳しさはありますが、何より人の温かさを感じます。他に負けない地域に根ざしているところが小国町の良さだと思っています。そんな小国町で小学校から高校まで通学できることはとても幸せなことだと思います。夫も小国高校の卒業生です。まだ小学生の息子たちも通うことができたらいいなあと思う今日この頃です。この小国町にずっと小国高校があることを願います。

絵本とライフワーク

(旧姓加藤)

河村 佐登子

(昭和五十年度卒)



高校生のあの頃、夢見る乙女だった私も還暦と呼ばれる年になった。せつかくの機会なのでこれまでを少し振り返ってみたいと思う。

十代後半から二十代前半は、進路について真剣に悩んでいた。色々あったが二年遅れで短大の幼児教育科に入学した。高校在学中は考えられない選択だったと思う。実習で重度の知的障がいの方の入所施設に行った時、琴線に触れるものがあり、この人たちに関わる仕事がしたいと思った。

卒業後は、県内の施設や養護学校、学童保育所等で働いた。現在も養護学校の子が放課後を過ごす学童保育所で週一日ではあるが手伝わせてもらっている。

二十代後半に職場で知り合った夫と結婚、長男、二男、長女が生まれた。上二人は結婚し、孫が二人になった。さて、私は絵本が好きだ。子供達が小さい時は、お昼寝や夜寝る前の絵本タイムを楽しんでいた。末の子が幼稚園の時、ある講座がきっかけで絵本の会が結成された。持ち寄った絵本を紹介し合ったりして自分たちが楽しむ会だったが、そのうちにお話し会の依頼が来るようになった。図書館、小学校、保育園：等で絵本の外、紙芝居、素語り、ペープサートやパネルシアター、人形劇等々、たくさん盛り込んだお話し会をする活動がメインになっている。

発足当初、二十名ほどいた会員も今は五人になった。皆フルタイムではない仕事をしながらだが、週一回の集まりやお話し会の日は、必ず参加できるようにやりくりしながら続けてきた。沢山の道具を抱えてあちこち回り歩き、旅芸人の一座のように思うこともある。

年間のスケジュールは、週一回の集まりとお話し会を中心に回っている。楽しくて続けてきたことが、いつの間にかライフワークの

人生の彩り

(旧姓小林)

高野 香子

(平成十年度卒)



ようになっていく。この会も今年度二十周年になった。還暦と二十周年節目の年が重なった。一緒にやっていく仲間がいて、家族の理解があつて(暗黙の...)続けることが出来た事に感謝しつつ、これからも健康に気をつけて、楽しく活動していきたいと思う。

最後に：少数者だから出来ることを最大限に活かし、益々魅力ある小国高校になることを期待しています!!

高校時代を振り返ろうとした時にふと二十年の月日が流れている事に驚き、まだ自分が若者のような気持ちでいた事に恥ずかしさを感じています。現在は母校のすぐ近くで二児の育児を

しながら暮らしています。在学生の一人一人にキラキラした未来が広がっていきまますように、ささやかに祈ります。

年を重ねるごとに、四季の移ろいの中、小国の美しい自然を身近に暮らしている事に深い幸せを感じるようになってきました。温身平、赤芝峽、黒沢峠、季節によって様々な表情を見せてくれる大自然の名所が、この町に沢山あることに気付いたのは、ここ数年のことです。

高校在学中は都会への憧れが強く、卒業後は東京の服装系学校へ進学をしました。四季の美しさも見落としながら、都会にただ夢を抱いていました。

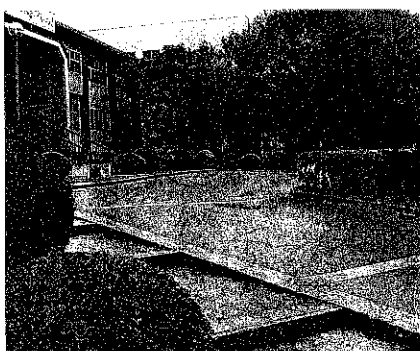
東京での暮らしは、刺激的で楽しく、溢れそうな人へのまねながら、孤独で寂しくもあり、しかし多様な人々との出会いによって、それまでの固定観念の枠を外してもらった様に思います。大きなヴィンテージショップで働きながら旅や音楽など好きなことを追求して過ごした時間は、人生のお宝のような時間です。バックパックで国内外を旅していた時期もありました。自分の知らなかった日常が地球には

溢れている事に驚き、日本とは異なる生態系の自然に触れたり、知らなかった世界に触れることは、心にワクワクと彩りを与えてくれました。感謝と感動で心が洗われるような瞬間が沢山ありました。

ただ楽しく生きていく事だけでも、人生は十分価値がある。気がついたのは、心の持ち方ひとつで見ていく風景が全く変わるものだという事でした。

楽しく暮らすという事すら、簡単なようで難しい時もある。考え込んでしまう事もあるけれど、そんな時こそ当たり前の日々を丁寧に暮らしていきたい。身近な人へ感謝の気持ちを忘れずに。

この度、一筆の機会を与えて下さった駒沢さん、本当にありがとうございます。



小国町の 伝統芸能紹介

古田歌舞伎

への思い

安部 隆利

(昭和四十九年度卒)



年の公演を最後に中断し、昭和六十一年、復興気運が高まり「古田歌舞伎」と改め、地区内外の協力を得て、復興第一世代の私らの親世代、戦前生まれが中心となり復興。その後、平成三年に私ら戦後生まれの第二世代が役者として加わりましたが、古田住人として義務的に参加させられたこともあり、中には挫折や離脱する者も多くありました。

そうした紆余曲折が有りながらも継続してきましたが、限界集落に近い古田地区のみでの役者継承は困難となり、現在は町内外から広く役者を求め、平成生まれの第三世代へ引き継ぎつつあるところです。

その達成感に酔いしれています。

私自身も若い頃は、自分の演じきった喜びだけでしたが、最近是指導した若手役者の達成した笑顔に喜びを感じる方が多くなってきました。役者の一番の醍醐味は公演中の観客の笑いや涙、拍手を戴くことです。その一瞬の感動のために厳しい稽古を積んでいるのです。古田を中心に十台の役者から八十代の世話係まで一体となつて成し遂げるこの事業は途絶えさせてはならないと強く思っております。

今年の十月末の公演には、是非皆様に御来場いただき、若い役者の勢いある演技やベテランの味のある芸を見ていただければ幸いです。

最初に古田歌舞伎の成り立ちから紹介させていただきます。小国町北方の三十数戸の古田地区に、江戸時代末期ごろ若者数名で歌舞伎を行ったのが発祥となり、明治二十年ごろ江戸歌舞伎一座が小国町を巡業中に座長が急死、一座は解散、浄瑠璃の尾上竹三郎が古田に住みつぎ指導にあたり発展し、大正時代に「古川一座」を旗揚げ、農閑期に村内外に旅興行をしていたとのこと



戦後は衰退し昭和三十三年現在私は座長兼役者として若手への指導も行っていますが、新人が役者として稽古を始めると、歌舞伎特有の節回し、発声や所作に戸惑い、厳しい稽古に挫折しそうになることもありますが、いざ公演を迎え、化粧や支度を整えて演じると、



恩師回想

初任校の

懐かしき思いで

海老名 郁 夫先生

昭和四十五年～昭和四十七年



新採教員として小国高校に赴任したのは、昭和四十五年四月一日。今から四十八年前となります。現在では既に年齢が七十歳を超えましたので、その当時の記憶は少々定かではありませんが、色々思いを巡らせてみたいと思います。

新卒の世間のことも弁えないわが若造で有りましたから、教職員の方々から様々な教示を受ける場面、また、生徒たちからも教えられることの多い日々を送ったことは間違いありません。自分の未熟さ・能力の無さ等々しみじみとかみしめ紐解いた想いの毎日ではなかった

かと回想しています。

あまつさえ、部活動の顧問がバスケット部というところで、バスケットのバの字も知らない自分に一体何が出来るかと思悩んだものです。しかし、自分のそういう思いとは関係なく、部活動というのはその場々での即適切な指導が求められるという現実の厳しさを嫌と言うほど味わされたと思います。生意気なことを言えば、塗炭の苦しみとはこういうことを言うのかと。

一年目については以上のような状況だったのですが、ただ、唯一自慢できることは、私が何事も諦めなかったし、決して途中で投げ出すということは一切してきませんでした。教職員の方々からも生徒たちからも揉まれ続けられているうちに「自分らしさ」が形成され、それが「自分の強さ」になったように思われます。それがその後の教員生活の「原点」になったと述懐しています。その趣旨で、私も何校か勤務させていたただいた中でも、小国高校はとりわけ懐かしく、

感謝の念に絶えない高等学校です。

教員生活三十八年間勤めさせていただきました。一言では説明できない様々な体験を重ねてきました。この中で前述の「原点」は一貫して堅持してきました。

教育とは、「子供たちを育てる」こと、そして「自分も育つ」ことだと考えます。それがためには、強く、将来を見据えて、決して諦めず、着実な歩を進めることが肝要と思っています。

教員として

充実した時間

後藤 由 香先生

平成二十年～平成二十四年



このたび、同窓会から原稿依頼をいただき嬉しく思うと同時に、転勤して五年になるのかと時の流れをしみじみ感じています。二回目に担任した生徒たちが大学を卒業し、社会に出て(き

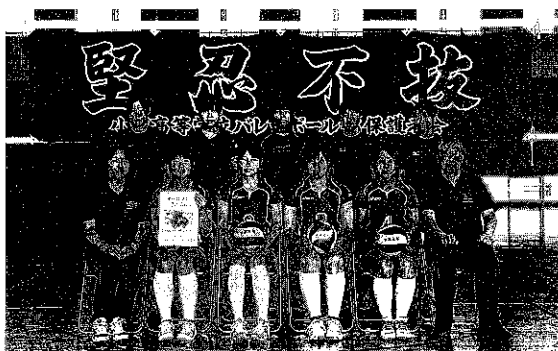
つと)活躍しているわけですから、時の流れを感じずにはいられません。

小国高校勤務を振り返ってみると楽しかった出来事ばかりで、教員として充実した時間を過ごせたと思っています。地域密着型の行事、ロサンゼルスへの修学旅行など、どれもほかの学校では経験できないことです。中でも体育祭や文化祭は、少ない人数を感じさせないパワーと工夫で、完成度の高いものを作り上げてくれました。思うようにいかずに泣いたり、喧嘩したりしつつも一致協力する姿。こちらにもサポーターのし甲斐がありました。大きく遅く成長していく

生徒たちの姿に、私も多くのことを学びました。また、活動報告会では、町を挙げての支援と、小国高校に対する期待を感じ、改めて生徒たちに対する責任の重さを感じました。

そして、バレーボール部の活動は、もっとも思い出深いものです。限られた人数でのチーム編成は、指導者として私を成長させてもらったと感謝しています。少ない人数でも、効率よく、技術を高めることを目標に、練習メニューは試行錯誤の繰り返しでした。厳しい練習もありましたが、よくついてきてくれたと思います。地区大会や県大会では、どの代もいい試合を展開してくれました。何より、苦しい練習を逃げ出さず、最後まで努力を続け、笑顔で引退してくれたこと。バレーボールが大好きで、卒業後も練習に顔を出してくれたこと。これが何より嬉しい事でした。

最後に、小国高校は、来年度、創立七十周年を迎えることになりました。御校の地域に密着した活躍が続くこと、そして小国高校同窓会のますますのご発展をお祈りいたします。



アメリカ短期留学生報告

短期留学で学んだこと

三年二組 安達 龍輝



私は二週間のアメリカ・デューパーへの短期留学で「どんな事でもチャンスととらえて、ひるまずにすぐ行動する」ことの大切さを学びました。

ホームステイ初日は特に、ホストファミリーと一緒に何かやろうと誘われたときに戸惑ってしまい、交流するチャンスを逃がしてしまふことがあり後悔しました。他にも、ホストファミリーやホストブラザーの友達と会話するときに、受け身になってしまい、はじめの方はうまくコミュニケーションをとることが出来ずホストブラザーに何度も助けてもらいました。さらに、ホストファミリーやその周り

の人たちから話しかけてもらった時もうまく答えることが出来ず多くのチャンスを潰してしまいました。そのためチャンスだと思った時にはすぐに行動しないといけないと思いました。

日本とは異なる価値観に実際に触れることで広い視野を持つことが出来たと思います。この短期留学で学んだことを忘れずに大学へ進学した後もどんなことでもチャンスととらえ、何事も積極的に行動していきたいと思います。

アメリカ短期留学体験記

三年二組 笠原 一輝



私は二週間アメリカ・デューパーにホームステイしてきました。聞きなれない英語だけの世界に初めは戸惑



クラスメイト達と

いながらも、楽しく英語を学習することができました。また、アメリカの独特の文化に触れることで、改めて日本の素晴らしさを実感することができました。

二週間英語を聞き、話し続けたことで自分の英語力が高まったと感じています。しかし、時には言いたいこ

とを英語で表現することができず、悔しい思いをしました。これから英語に触れる機会は少なくなると思いますが、この短期留学で向上した英語力を維持できるように努力したいと考えています。

今回の短期留学を通して、たくさんの人と会話することができ、さまざまな価値観や考え方を知ることができました。これからの挑戦し続ける姿勢を忘れず、自分自身の成長へと繋がられるようにしたいです。今回の短期留学にあたり、支援してくださった地域の方や先生方に感謝して、この経験を今後に生かしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

短期留学に参加して

三年二組 清野 恭平



この二週間は私の人生の中で最も濃厚な二週間でした。私はこの短期留学を通して

自分の語学力の低さを痛感し、出来なくても積極的にやってみるこの大切さを学びました。

アメリカで英語だけの生活をして、相手の言っている事を聞きとることや、自分が今なにをしたいかを伝えるためには、自分の知っている英語だけでは不十分であり、自分の英語力の低さを痛感しました。しかし、現地の人達やホストファミリーの人たちは英語をやさしい英語に置き換えてくれました。また、私は自分の英語が伝わらないときはジェスチャーや言い換えをしたりし、出来なくともとりあえずやってみるという力が身についたと思います。

二週間の短期留学で私は、壁や問題に直面した時、できないといってあきらめるのでなく違う方法で問題にアプローチをする大切さや、二週間自分で考え行動したこと、積極性も身に付きました。

最後に、後援会をはじめ、先生方、家族のサポートがあったからこそ、このような貴重な体験をすることが出来ました。本当にありがとうございました。

事務局だより

平成二十九年
総会報告

平成二十九年同窓会総会が八月四日(金)みよしや食堂に於いて開催されました。平成二十八年度事業報告及び決算、平成二十九年事業計画及び予算などが承認されました。

役員改選に於いて、木村副会長に代わり、昭和五十二年卒業の二村 強さんが副会長として承認され、会長、副会長三名は留任、幹事十一名も留任が承認されました。

創立七十周年

記念事業

平成三十年度小国高等学校は創立七十周年を迎えます。記念事業として皆様のご協力によりまして、二十九年中に同窓会名簿の作成を行いました。

今後名簿購入を希望される方は事務局までお申し込みください。

創立記念式典

記念講演講師の紹介

今年度は、創立記念式典に於いて、記念講演を開催します。記念講演講師に弁護士でタレントの菊池幸夫先生を予定しています。

菊池幸夫先生

プロフィール紹介

弁護士(第二東京弁護士会)番町法律事務所。
中央大学法学部卒業。元司法研修所刑事弁護教官。現在社会福祉法人練馬区社会福祉事業団理事も務める。また、日本テレビ「行列のできる法律相談所」及び「スッキリ」をはじめ、数本の番組にレギュラーとして出演。弁護士業務の傍ら体力作りに勤しみ、各地のトライアスロン大会へも出場。地元小学生のバレーボールチームの監督も務めている。

会費納入のお願い

創立七十周年記念式典や記念行事に関わる経費を皆さんからの会費で賄う予定にしております。

母校小国高校の発展と後輩達の教育支援のため多くの皆様の会費の納入をお願い申し上げます。

平成28年度 同窓会会計決算書

収入の部

(単位:円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	収入済額	増 減	摘 要
会 費	1,000,000	0	1,000,000	684,890	△315,110	振り込み納入者手数料43,110引き
入 会 金	225,000	0	225,000	220,000	△5,000	◎5000円×44名
繰 越 金	274,156	0	274,156	274,156	0	前年度繰越金
繰 入 金	0	0	0	0	0	
雑 収 入	844	0	1	1	△843	預金利息
合 計	1,500,000	0	1,179,047	1,179,047	△320,953	

支出の部

(単位:円)

科 目	当初予算額	補正額	予算現額	支出済額	増 減	摘 要
需 要 費	30,000	0	30,000	21,820	8,180	弁当代等
会 議 費	150,000	0	150,000	47,172	102,828	各種役員会諸経費等
通 信 費	240,000	0	240,000	103,828	136,172	ハガキ、切手、27年度会報発送費込み
印 刷 費	70,000	0	70,000	49,680	20,320	総会チラシ、振込用紙印刷
慶 弔 費	10,000	0	10,000	1,047	8,953	弔電等
教育助成費	370,000	0	370,000	211,771	158,229	アメリカ短期留学助成(127,165円)卒業記念品、修業費記念品等
支部助成費	100,000	0	100,000	70,000	30,000	町内地区11支部助成金
特別事業基金	0	0	0	0	0	
事 務 費	50,000	0	50,000	65,647	△15,647	事務局(用紙等)、インク代
事 業 費	470,000	0	470,000	340,694	129,306	会報発行等、花回廊種代等
予 備 費	10,000	0	10,000	0	10,000	
合 計	1,500,000	0	1,500,000	911,657	588,343	

収入決算額
1,179,047支出決算額
911,657通帳残金
267,390

※残金の267,390円は、平成29年度へ繰り越すものとする。

平成29年度 同窓会会計予算書

収入の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
会 費	1,000,000	1,000,000	0	年会費 ◎1,000×1,000名
入 会 金	215,000	225,000	△10,000	卒業生入会金 ◎5,000円×45名
繰 越 金	267,390	274,156	△6,766	前年度繰越金
繰 入 金	0	0	0	特別事業基金より一般会計繰入
雑 収 入	610	844	△234	預金利息等
合 計	1,483,000	1,500,000	△17,000	

支出の部

(単位:円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	比較増減	摘 要
需 要 費	30,000	30,000	0	弁当・お茶代等
会 議 費	150,000	150,000	0	各種会議経費
通 信 費	240,000	240,000	0	ハガキ・切手、28年度会報発送費込み
印 刷 費	70,000	70,000	0	総会案内封筒印刷等
慶 弔 費	10,000	10,000	0	弔電等
教育助成費	370,000	370,000	0	アメリカ短期留学卒業記念品等
支部助成費	100,000	100,000	0	町内支部助成
特別事業基金	0	0	0	
事 務 費	50,000	50,000	0	用紙等
事 業 費	460,000	470,000	△10,000	会報発行、花回廊等
予 備 費	3,000	10,000	△7,000	
合 計	1,483,000	1,500,000	△17,000	

生徒会長の抱負

二年二組 齋藤 紫吹



新生徒会長になりました齋藤紫吹です。これまで生徒会副議長として活動してきた経験を活かし、来年度は生徒全員が明るく活気のある学校生活を送れるように活動していきます。

平成三十年の生徒会スロガンは「万里一空」に決

まりました。これは「目的、目標、やるべきことを見失わずに励み努力する」という意味です。平成二十九年は「有志意成」のスローガンをともに全校生徒がそれぞれの目標を持ち、様々な行事や活動を行ってききました。来年度は更に自分の決めた目標を達成できるように努力を重ねるという思いがこのスローガンには込められています。

小国高校は他の高校と比べて生徒数が少ないですが、一人一人が様々な場面で輝くことが出来ます。そのために行事はもちろん、学習等でも仲間達と互いに刺激

し合い、高めあえる関係を築き、常に学ぶ姿勢を大切にしたいと考えます。

平成29年度進路状況

小国高等学校進路指導課

進路決定状況

(3学年:在籍数42 男26/女16)

進路	進学	就職	その他	計
大	短期大学	専門学校等	大学等	その他
先	学	専	大	そ
男	5	0	2	0
女	1	3	6	0
計	6	3	8	0

進学先

【大 学】 東北公益大学公益学部公益学科(4)/東海大学教養学部国際学科/新潟医療福祉大学リハビリテーション学部理学療法学科

【短期大学・短期大学校】 羽陽学園短期大学幼児教育学科/東北文科大学短期大学子ども学科/新潟青陵大学短期大学人間総合学科

【専門学校等】 山形厚生看護学校/国立病院機構新潟病院附属看護学校/新潟看護医療専門学校村上校看護学科/国際メディカル専門学校看護学科/大原簿記情報ビジネス医療福祉専門学校山形校/新潟医療福祉カレッジ/悠久山栄養調理専門学校/新潟工科専門学校

就職内定先

【西 置 賜】 クアーズテック(株)小国事業所(9)/グローバルウェーハズ・ジャパン(株)小国結晶センター(2)/日本重化学工業(株)/北伸自動車工業(株)(2)/樋口建設(飯豊町)/(株)三協製作所山形工場(長井市)/エービーエム(株)(米沢市)/ヘアー&メイクEarth米沢店(米沢市)

【県 内】 山形三菱鉛筆精工(株)(川西町)

【県 外】 常盤化工(株)(仙台市)/(株)やまや(仙台市)/(株)ブルボン村上工場(村上市)(3)/中越運送(株)(新潟市)



ビジネス文書検定 一級合格者

三年二組 白川 祐衣



私はビジネス文書実務検定一級を受験するにあたり、毎日練習を行いました。文字を打つ速さや文書を効率よく作成することはすぐに上達するものではなく、練習を積み重ねて慣れていくことが大切だったので、授業中だけでなく家で時間を計ったりしながら練習を続けました。また分からないことは先生に聞いたりインターネットで調べたりして、一つ一つ分からないことを減らしていき、その結果、合格することができました。

この結果を通して努力の積み重ねの大切さを学ぶ事が出来たので、この先困難に直面した時も諦めずに努力していきたいです。

事務局

事務局長

高橋 義彦
駒澤 堅一
原田 千鶴子
井上 優子
齋藤 香穂
白川 朋絵

今冬は、近年にない豪雪に見舞われた。暦の上では、春だというのに小国の雪は未だに降りやむ事を知らない。町内の積雪は二メートルを超し、山間部においては有に三メートルを超している。さすが小国の冬である。

しかし、私の高校時代には、毎年この様な雪が降り積もっていたような気がする。吹雪の日には、よく米坂線が不通になる、当然汽車通学の生徒達、先生さえもが学校には登校できない。となれば授業が自習。汽車通学以外の生徒は、二校時、三校時で早退、お決まりのコースである。「今日も汽車が止まればいいのにな」と内心思いつつ、遠い昔の思い出である。

小国の冬は厳しい。厳しさを乗り越えて訪れる春はなんとも言い難く素晴らしい。もう少しの辛抱、春の足音が少しずつ近づいて来ている。

(事務局 高橋)

編集後記